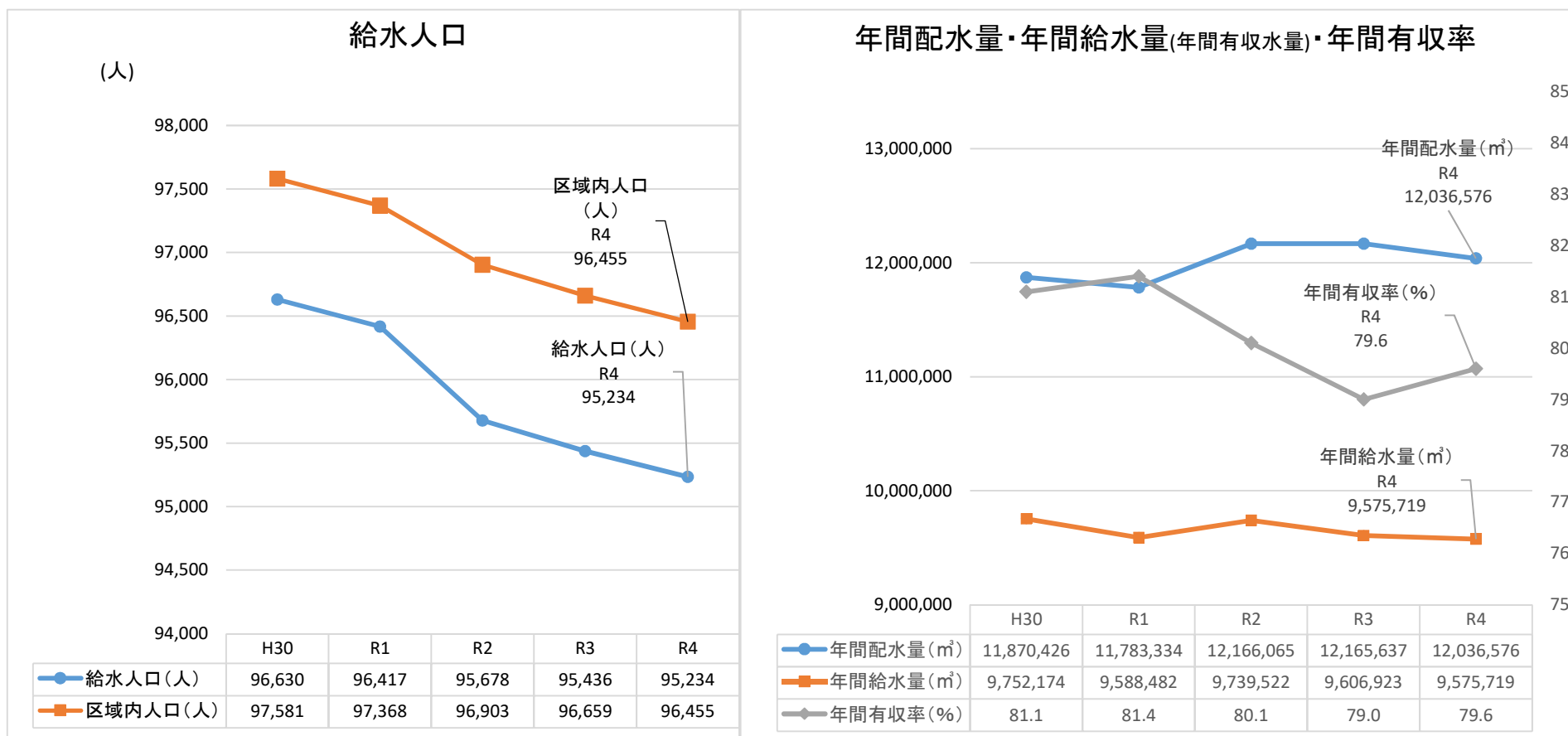


## 令和4年度 安曇野市上下水道事業 決算概要

## I 水道事業決算概要

## 1 業務量 (決算書 23ページ)



## 2 収益的収支（損益計算書）（決算書 4～5ページ、23ページ、26～29ページ）

水道水を作り、みなさまへお届けするための収支状況です。

水道水がどのくらい売れて、その水道水を供給するまでにどのくらいの費用がかかっているのかを表しています。

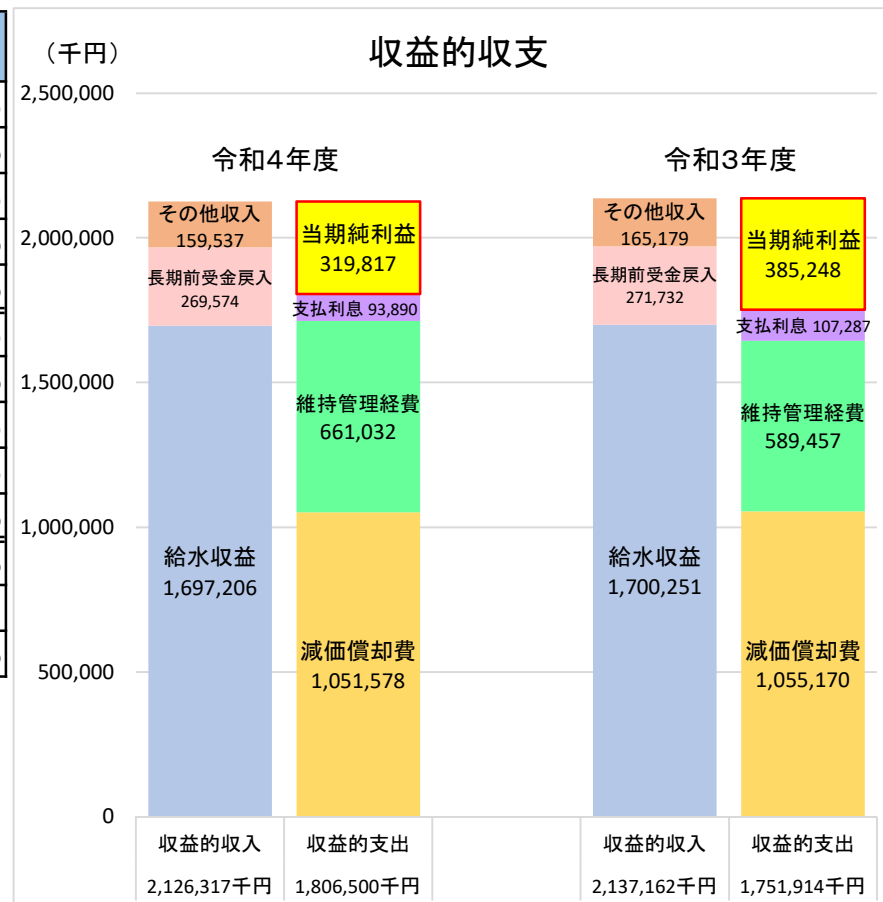
（千円）※消費税抜き

収益的収支	令和4年度	令和3年度	増減	増減率
営業収益	1,854,513	1,862,859	△ 8,346	△ 0.45%
うち給水収益	1,697,206	1,700,251	△ 3,045	△ 0.18%
営業外収益	271,804	274,303	△ 2,499	△ 0.91%
うち長期前受金戻入	269,574	271,732	△ 2,158	△ 0.79%
収益計①	2,126,317	2,137,162	△ 10,845	△ 0.51%
営業費用	1,710,898	1,643,452	67,446	4.10%
うち減価償却費	1,051,578	1,055,170	△ 3,592	△ 0.34%
うち資産減耗費	5,782	16,143	△ 10,361	△ 64.18%
営業外費用	95,602	108,462	△ 12,860	△ 11.86%
費用計②	1,806,500	1,751,914	54,586	3.12%
経常損益①-②	319,817	385,248	△ 65,431	△ 16.98%
特別損益	0	0	0	-
純損益	319,817	385,248	△ 65,431	△ 16.98%

損益では、総収益が21億2,631万7千円で、総費用は18億650万円となり、純損益は3億1,981万7千円の黒字で、前年度に比べ6,543万1千円減少となりました。

収益は、営業収益、営業外収益が共に前年度に比べ減少したため、収益全体では1,084万5千円の減少となりました。給水人口の減少に伴う料金収入の減少が主な原因と考えられます。

費用は動力費の増加を主な原因として、全体で5,458万6千円増加したため、純損益は減少となりました。



### 3 資本的収支 (決算書 2～3 ページ)

水道施設の整備と企業債償還を行うための収支状況です。

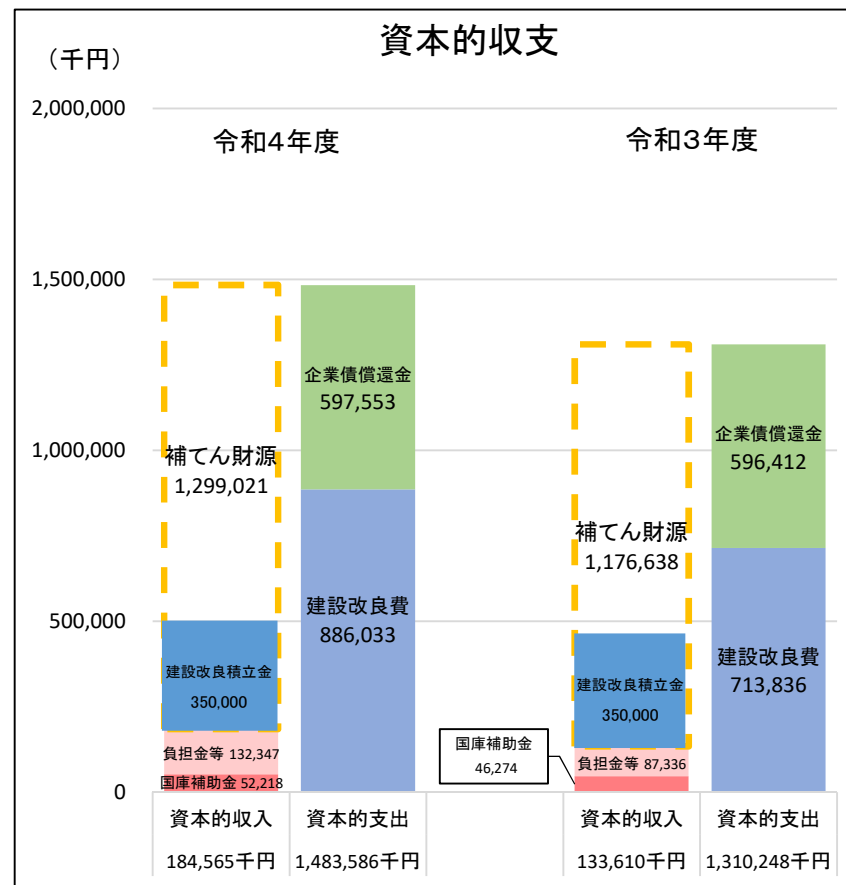
(千円) ※消費税込み

資本的収支		令和4年度	令和3年度	増減	増減率
資本的収入 (a)		184,565	133,610	50,955	38.14%
	うち企業債	0	0	0	
資本的支出 (b)		1,483,586	1,310,248	173,338	13.23%
	うち企業債償還金	597,553	596,412	1,141	0.19%
資本的収支不足額 (a) - (b)		△ 1,299,021	△ 1,176,638	△ 122,383	10.40%
上記補てん財源	消費税資本的収支調整額	63,246	59,294	/	
	損益勘定留保資金(※1)	885,775	767,344		
	建設改良積立金	350,000	350,000		

資本的収入は1億8,456万5千円で、前年度より5,095万5千円増加しました。これは、国庫補助金及び負担金等の増加によるものです。資本的支出は14億8,358万6千円で、穂高豊里整備送水管布設工事等の新規事業の着手や主要管路整備事業による工事数の増に伴い前年度より1億7,333万8千円増加しました。収支差引で不足する12億9,902万1千円は、損益勘定留保資金8億8,577万5千円、建設改良積立金3億5千万円の取り崩しなどで補てんしました。

(※1) 損益勘定留保資金

施設の減価償却費など現金の支出を必要としない企業内部で留保される資金



#### 4 貸借対照表 (決算書 8～9ページ)

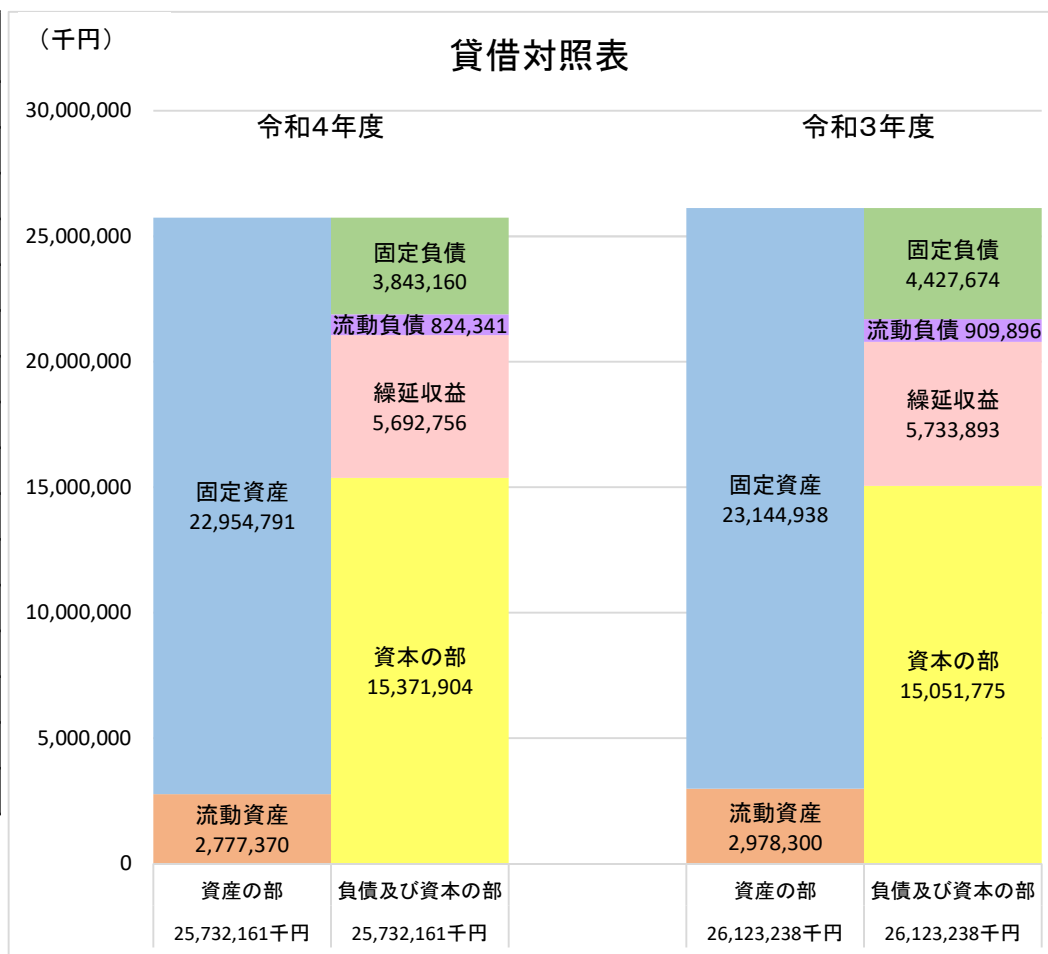
財政状態を表し、保有している財産の状況や、抱えている借入金の状況などを明らかにしています。

(千円)

	令和4年度	令和3年度	増減
資産	25,732,161	26,123,238	△ 391,077
固定資産	22,954,791	23,144,938	△ 190,147
流動資産	2,777,370	2,978,300	△ 200,930
うち現金	2,590,689	2,800,037	△ 209,348
負債	10,360,257	11,071,463	△ 711,206
固定負債	3,843,160	4,427,674	△ 584,514
うち企業債	3,843,160	4,427,674	△ 584,514
流動負債	824,341	909,896	△ 85,555
うち企業債	584,514	597,553	△ 13,039
繰延収益	5,692,756	5,733,893	△ 41,137
資本	15,371,904	15,051,775	320,129
資本金	12,947,496	12,597,496	350,000
剰余金	2,424,408	2,454,279	△ 29,871
資本剰余金	231,165	230,853	312
利益剰余金	2,193,243	2,223,426	△ 30,183
負債+資本 計	25,732,161	26,123,238	△ 391,077

令和4年度は企業債の借入を行わず、企業債償還等により負債は7億1,120万6千円減少しました。

また、前年度決算で取り崩した建設改良積立金の組入により資本金は3億5,000万円増加しました。



## 5 キャッシュ・フロー計算書（決算書 25ページ）

1年間の現金収入や現金支出を「業務活動」「投資活動」「財務活動」の3種類に区分けして、現金の流れを表します。

業務活動によるキャッシュ・フローでは、主たる業務活動に伴う現金の増減を表します。プラスになっていることが原則で、多いほど事業活動が順調と言えます。

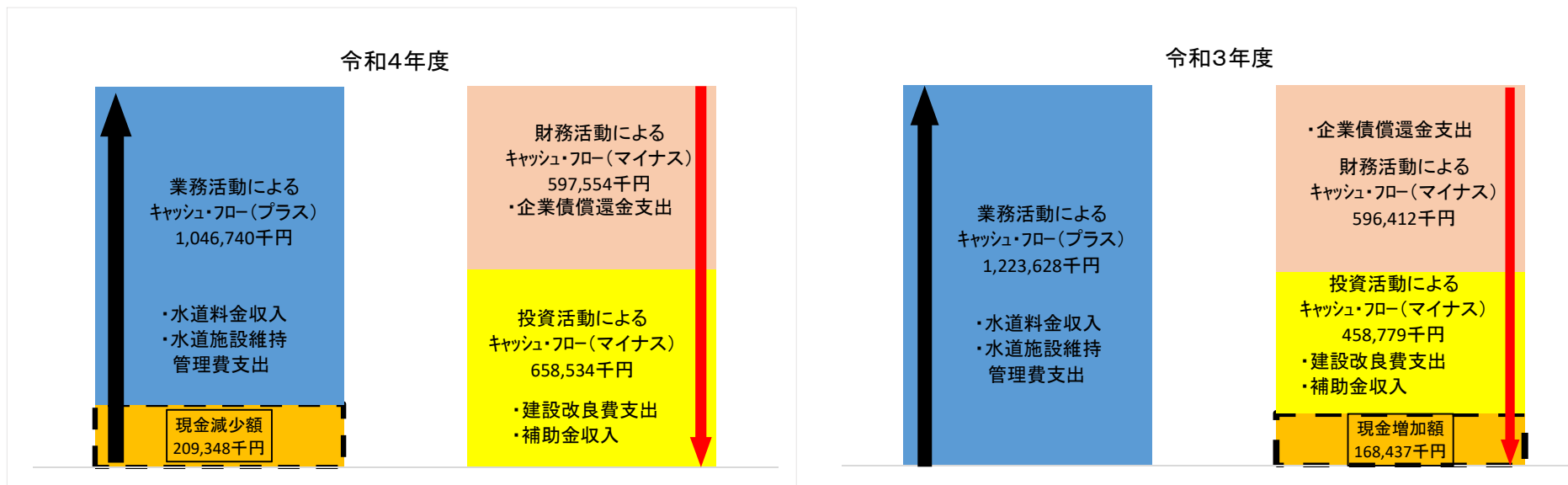
投資活動によるキャッシュ・フローでは、施設の整備や固定資産の取得に伴う現金の増減を表します。通常はマイナスとなります。

財務活動によるキャッシュ・フローでは、資金調達や企業債の償還に伴う現金の増減を表します。企業債を償還した場合はマイナス、借入れた場合はプラスとなります。

(千円)

	令和4年度	令和3年度	増減
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,046,740	1,223,628	△ 176,888
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 658,534	△ 458,779	△ 199,755
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 597,554	△ 596,412	△ 1,142
現金増減額	△ 209,348	168,437	△ 377,785
現金期首残高	2,800,037	2,631,600	168,437
現金期末残高	2,590,689	2,800,037	△ 209,348

業務活動による現金は、10億4,674万円でプラス領域のため事業活動は順調と言えます。投資活動による現金は、6億5,853万4千円のマイナスで主要管路整備、配水管布設替工事等の建設改良費を主に支出しました。財務活動による現金は、5億9,755万4千円のマイナスで企業債償還金を支出しました。現金の期末残高は25億9,068万9千円となりました。

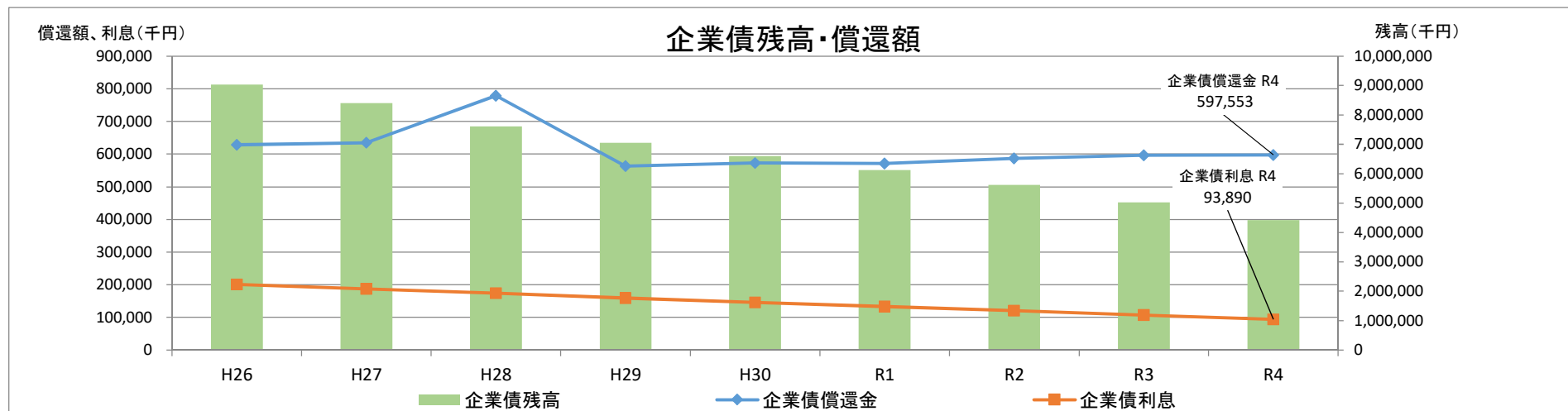


## 6 企業債（決算書 24ページ、31～32ページ）

(千円)

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
年度末残高	6,603,580	6,125,655	5,621,639	5,025,227	4,427,674
借入額	122,000	93,000	83,000	0	0

5億9,755万3千円の元金償還により、令和4年度末の企業債残高は44億2,767万4千円となりました。  
また、企業債利息として、9,389万円を支払いました。



## 7 利益剰余金（決算書 6～7ページ）

(千円)

前年度からの繰越利益剰余金 A	900
当年度変動額 B	669,817
当年度純利益	319,817
積立金の取り崩し	350,000
当年度未処分利益剰余金 (C=A+B)	670,717

利益剰余金処分(案) (千円)

建設改良積立金の積立	△ 319,810
資本金への組入れ	△ 350,000
処分数計 D	△ 669,810

(千円)

翌年度への繰越利益剰余金(E=C-D)	907
---------------------	-----

当年度未処分利益剰余金は、前年度繰越額90万円と当年度純利益3億1,981万7千円、資本的収支の不足額を補てんするために建設改良積立金を取り崩した3億5千万円の合計6億7,071万7千円となりました。

剰余金の処分は、市議会での認定議決を受けて実行します。

当年度の利益は、後年度の更新事業の財源に充てるため、建設改良積立金へ積立てます。

# 令和4年度に水道事業で実施した主な取組みについて

## ①主要管路布設事業

### 《配水管布設工事》

災害時の避難所や病院等の重要給水施設と拠点配水池を結ぶ主要管路整備を行い、重要給水施設への給水ルートの耐震化を進めることができました。

管布設状況



管路埋戻し状況



(三郷上長尾)

●主要管路布設工事 6路線 L=2,556m C=242,322千円 (穂高上原・三郷上長尾)

## ②老朽管(漏水)対策事業

### 《漏水調査》

配水本管や給水管の漏水調査を、多点相関型漏水探知機(データロガ)や音聴調査により実施しました。発見した漏水箇所については早期に修理を行い、漏水の多い路線については、優先的に管路の布設替を実施していきます。

漏水探知機



音聴調査



漏水箇所



●漏水調査業務委託 明科川東配水系 C=3,520千円

## ③濁度計設置事業

### 《濁度計設置工事》

災害時、井戸内に発生した濁水が配水池内に混入すると安定的な配水が困難となるおそれがあるため、濁度計を設置し常時監視することにより水質事故を未然に防止することができます。

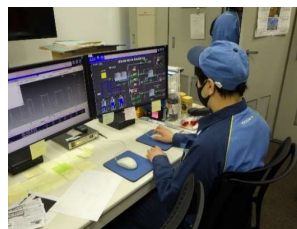
施工状況



機器調整



中央監視機能増設



●濁度計設置工事 一式(宮城水源地) C=47,300千円

## ④水道ビジョン見直し

### 《水道ビジョン見直し業務》

第2次安曇野市水道ビジョン前期計画期間(平成29年度～令和3年度)の終了に伴い、各方策の進捗状況の検証・評価を行い、目標達成に向けた後期の取組み内容の見直しを行いました。

#### 主な改正点

- ・老朽管の更新、指定避難所等重要給水施設への給水ルートの耐震化等水道施設の改修計画について、アセットマネジメント手法を活用し、長期的な更新シナリオを検討し、投資・財政計画(収支計画)を改定しました。
- ・第2次安曇野市総合計画基本構想の計画期間に合わせ、本ビジョンの計画期間を令和9年度まで1年延長し、11年間としました。

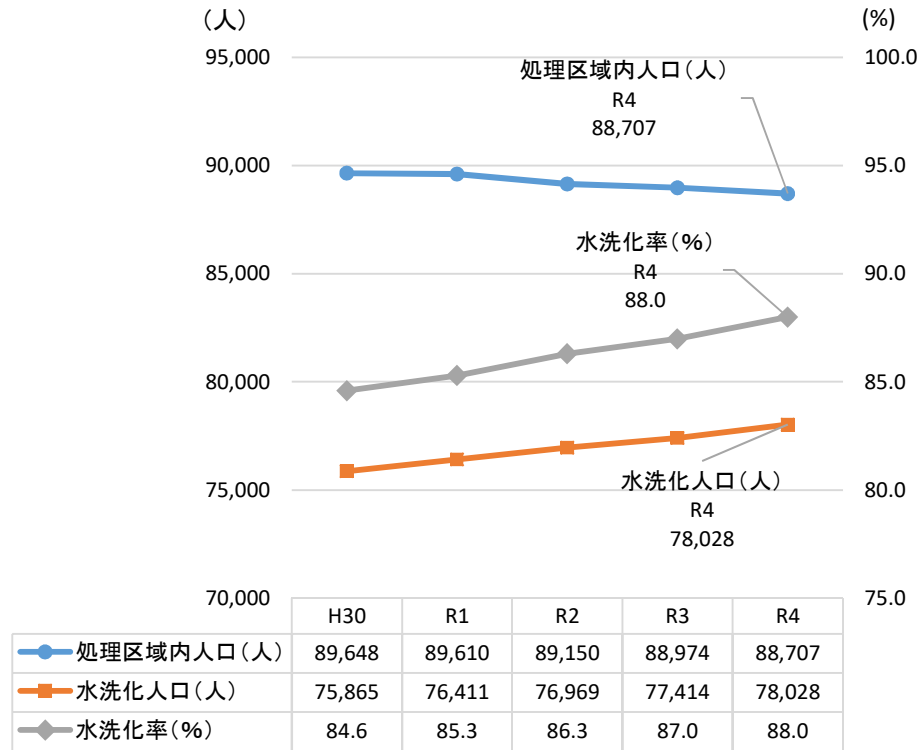


●安曇野市水道ビジョン改定支援業務委託 C=3,795千円

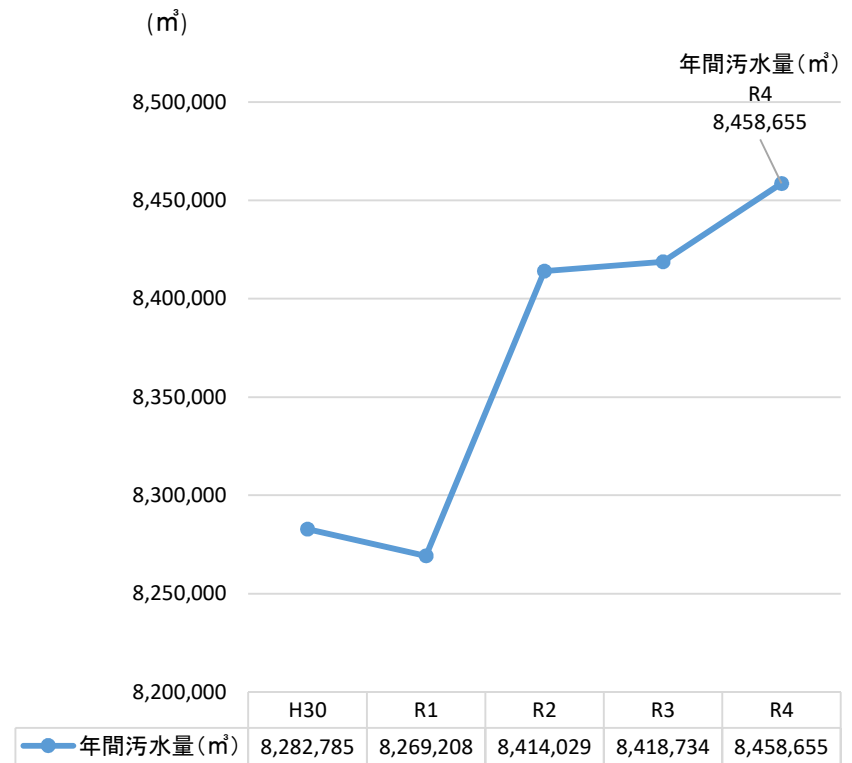
## II 下水道事業決算概要

### 1 業務量 (決算書 47ページ)

処理区域内人口・水洗化人口・水洗化率



年間汚水量





## 2 収益的収支(損益計算書) (決算書 36~37ページ、48ページ、51~54ページ)

使われた水をきれいにして川に流すまでの収支状況です。

下水道がどのくらい使用され、その汚水を処理するまでにどのくらい費用がかかっているのかを表しています。

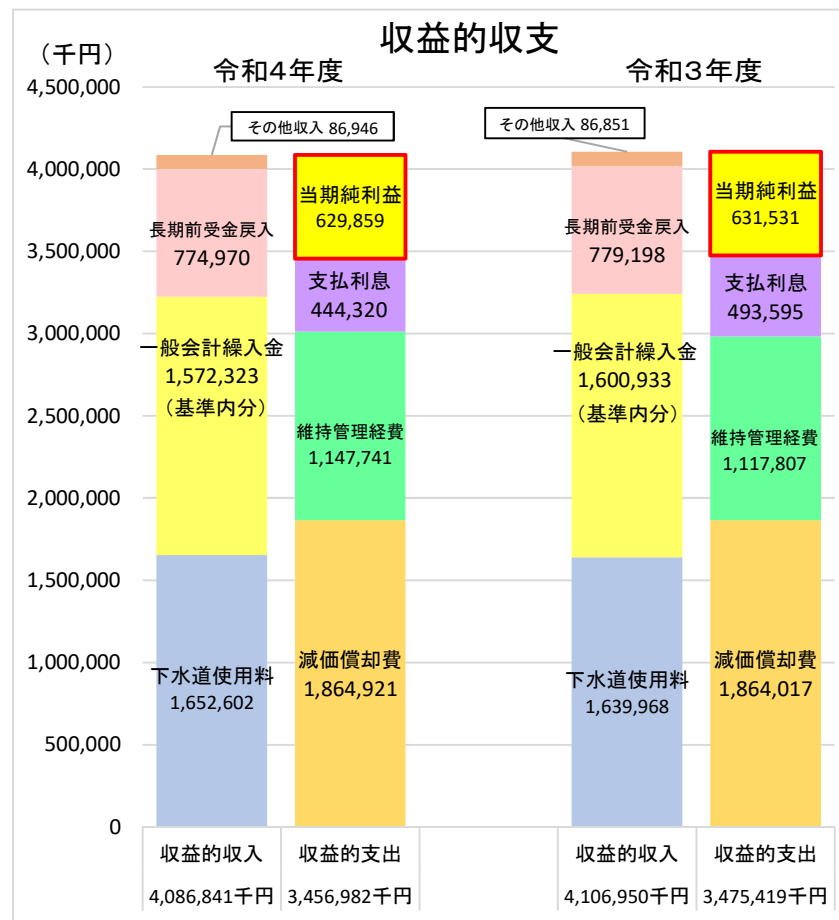
(千円) ※消費税抜き

収益的収支	令和4年度	令和3年度	増減	増減率
営業収益	1,680,167	1,665,214	14,953	0.90%
うち下水道使用料	1,652,602	1,639,968	12,634	0.77%
営業外収益	2,406,674	2,441,736	△ 35,062	△ 1.44%
うち一般会計繰入金	1,572,323	1,600,933	△ 28,610	△ 1.79%
収益計 ①	4,086,841	4,106,950	△ 20,109	△ 0.49%
営業費用	3,006,474	2,975,362	31,112	1.05%
うち減価償却費	1,864,921	1,864,017	904	0.05%
営業外費用	450,508	500,057	△ 49,549	△ 9.91%
費用計 ②	3,456,982	3,475,419	△ 18,437	△ 0.53%
経常損益 ①-②	629,859	631,531	△ 1,672	△ 0.26%
特別損益	0	0	0	
純損益	629,859	631,531	△ 1,672	△ 0.26%

損益では、総収益が40億8,684万1千円で、総費用は34億5,698万2千円となり、純損益は6億2,985万9千円の黒字で、前年度に比べ167万2千円減少となりました。

収益は、支払利息の減少に伴う一般会計繰入金の減少などにより、2,010万9千円減少しました。収益合計の約4割は一般会計繰入金が占めています。

費用は、支払利息の減少に伴い、1,843万7千円減少しました。



### 3 資本的収支 (決算書 34~35ページ)

下水道施設の整備と企業債償還を行うための収支状況です。

(千円) ※消費税込み

資本的収支		令和4年度	令和3年度	増減	増減率
資本的収入 (a)		853,125	833,890	19,235	2.31%
	うち資本費平準化債	491,000	400,000	91,000	22.75%
資本的支出 (b)		2,578,804	2,602,578	△ 23,774	△ 0.91%
	うち企業債償還金	2,501,467	2,453,448	48,019	1.96%
資本的収支不足額 (a) - (b)		△ 1,725,679	△ 1,768,688	43,009	△ 2.43%
上記補てん財源	消費税資本的収支調整額	0	647	/	
	損益勘定留保資金(※1)	1,094,179	1,139,341		
	減債積立金	631,500	628,700		

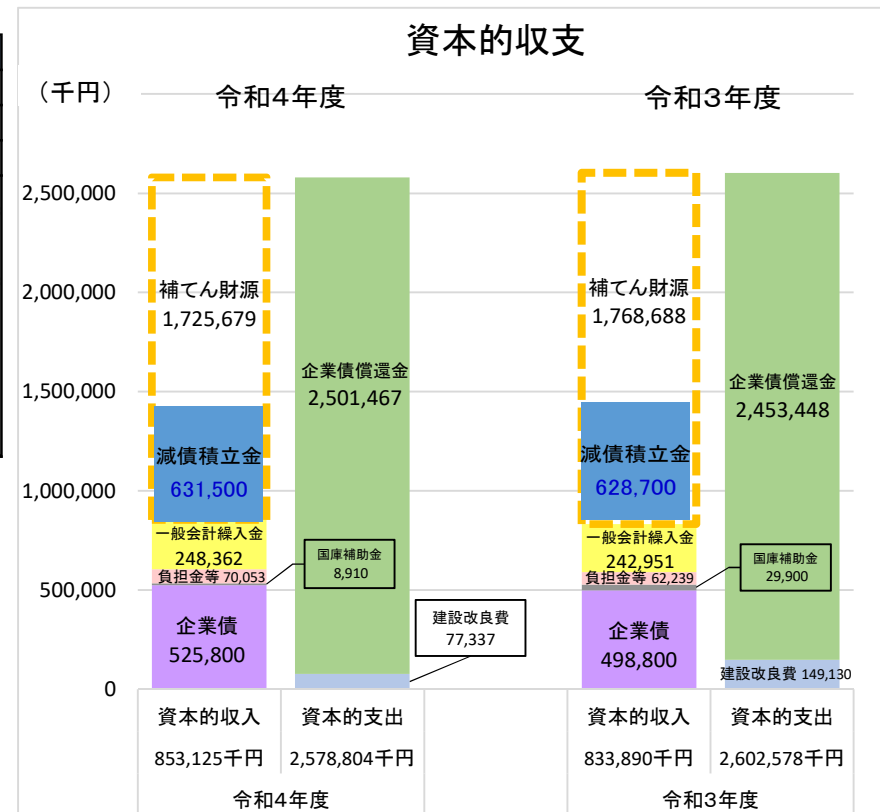
資本的収入は8億5,312万5千円で、企業債などの増加により、1,923万5千円増加しました。

資本的支出は25億7,880万4千円で、建設改良費の減少により、2,377万4千円減少しました。

収支差引で不足する17億2,567万9千円は、損益勘定留保資金10億9,417万9千円と減債積立金6億3,150万円の取り崩しなどで補てんしました。

(※1) 損益勘定留保資金

施設の減価償却費などの現金の支出を必要としない企業内部で留保される資金



### (参考) 一般会計繰入金収入額の比較 (決算書 49ページ、51ページ)

(一般会計負担金)

(千円)

	令和4年度	令和3年度	増減
一般会計繰入金合計	1,822,729	1,845,845	△ 23,116
収益的収入	1,574,367	1,602,894	△ 28,527
資本的収入	248,362	242,951	5,411

※収益的収入グラフとの差額は基準外繰入金(営業収益)分です。  
(令和4年度 2,044千円、令和3年度 1,961千円)

(千円)

収益的収入 基準内繰入金	1,572,323
収益的収入 基準外繰入金	2,044
上記合計	1,574,367

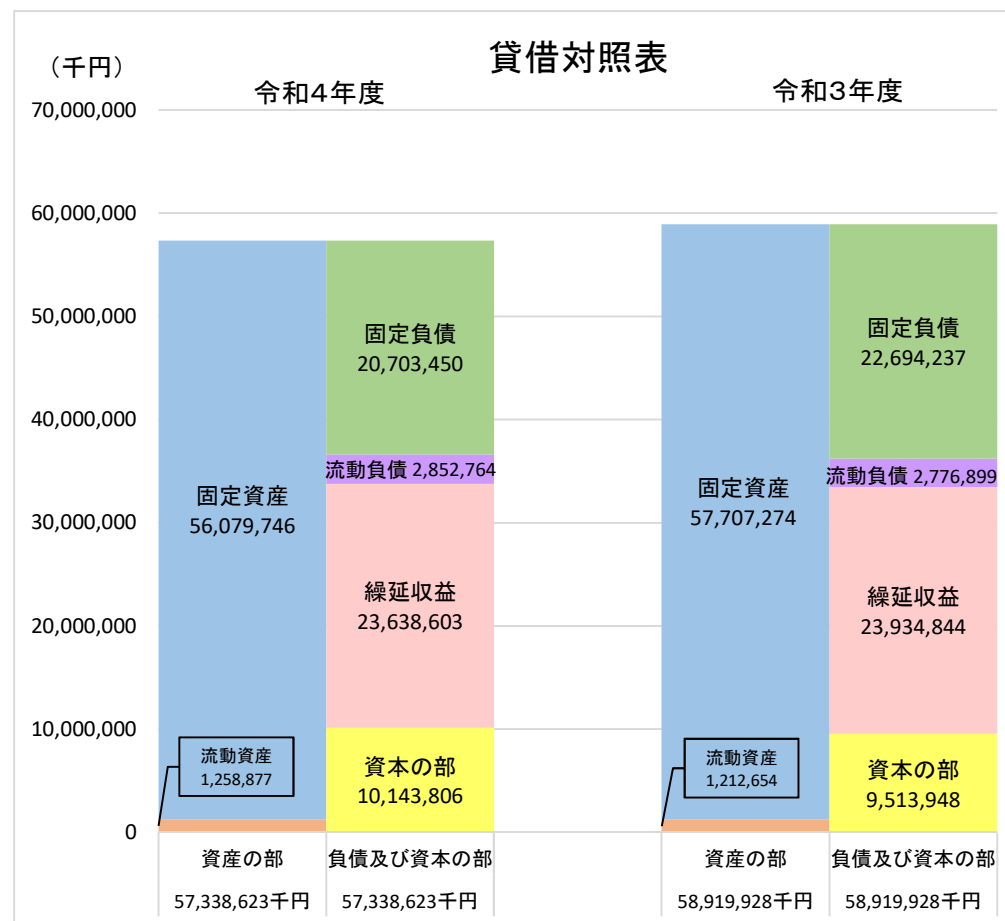
#### 4 貸借対照表 (決算書 40~41ページ)

財政状態を表し、保有している財産や、抱えている借入金の状況などを明らかにしています。

(千円)

	令和4年度	令和3年度	増減
資産	57,338,623	58,919,928	△ 1,581,305
固定資産	56,079,746	57,707,274	△ 1,627,528
流動資産	1,258,877	1,212,654	46,223
うち現金	1,168,491	1,115,251	53,240
負債	47,194,817	49,405,980	△ 2,211,163
固定負債	20,703,450	22,694,237	△ 1,990,787
うち企業債	20,703,450	22,694,237	△ 1,990,787
流動負債	2,852,764	2,776,899	75,865
うち企業債	2,516,588	2,501,467	15,121
繰延収益	23,638,603	23,934,844	△ 296,241
資本	10,143,806	9,513,948	629,858
資本金	8,484,773	7,856,073	628,700
剰余金	1,659,033	1,657,875	1,158
資本剰余金	397,447	397,447	0
利益剰余金	1,261,586	1,260,428	1,158
負債+資本 計	57,338,623	58,919,928	△ 1,581,305

企業債残高が232億2,003万8千円で、負債合計の約5割を占めています。また、前年度決算で取り崩した減債積立金の組入により資本金は6億2,870万円増加しました。



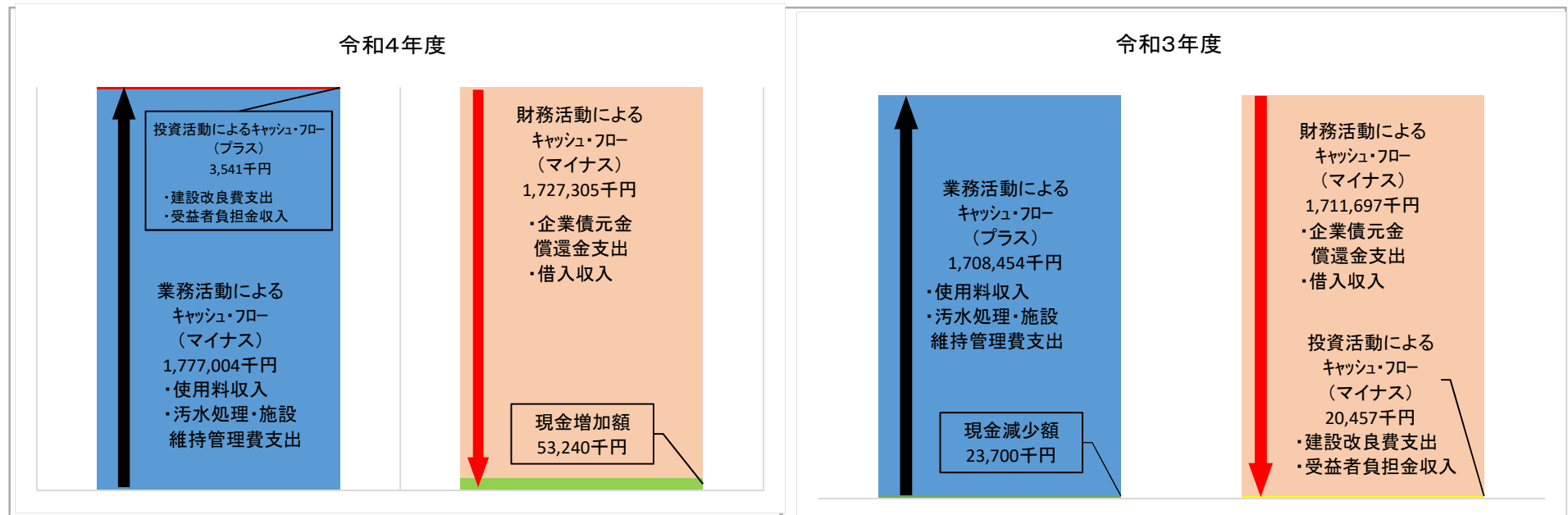
## 5 キャッシュ・フロー計算書 (決算書 50ページ)

1年間の現金収入や現金支出を「業務活動」「投資活動」「財務活動」の3種類に区分けして、現金の流れを表します。  
 業務活動によるキャッシュ・フローでは、主たる業務活動に伴う現金の増減を表します。プラスになっていることが原則で、多いほど事業活動が順調と言えます。  
 投資活動によるキャッシュ・フローでは、施設の整備や固定資産の取得に伴う現金の増減を表します。通常はマイナスとなります。  
 財務活動によるキャッシュ・フローでは、資金調達や企業債の償還に伴う現金の増減を表します。企業債を償還した場合はマイナス、借入れた場合はプラスとなります。

(千円)

	令和4年度	令和3年度	増減
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,777,004	1,708,454	68,550
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,541	△ 20,457	23,998
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,727,305	△ 1,711,697	△ 15,608
現金増減額	53,240	△ 23,700	76,940
現金期首残高	1,115,251	1,138,951	△ 23,700
現金期末残高	1,168,491	1,115,251	53,240

業務活動による現金は、17億7,700万4千円で順調な経営となっています。  
 投資活動による現金は、建設改良費の減少などにより354万1千円となりました。  
 財務活動による現金は、企業債の償還などにより△17億2,730万5千円となりました。  
 現金の期末残高は、11億6,849万1千円で、5,324万円の増となりました。

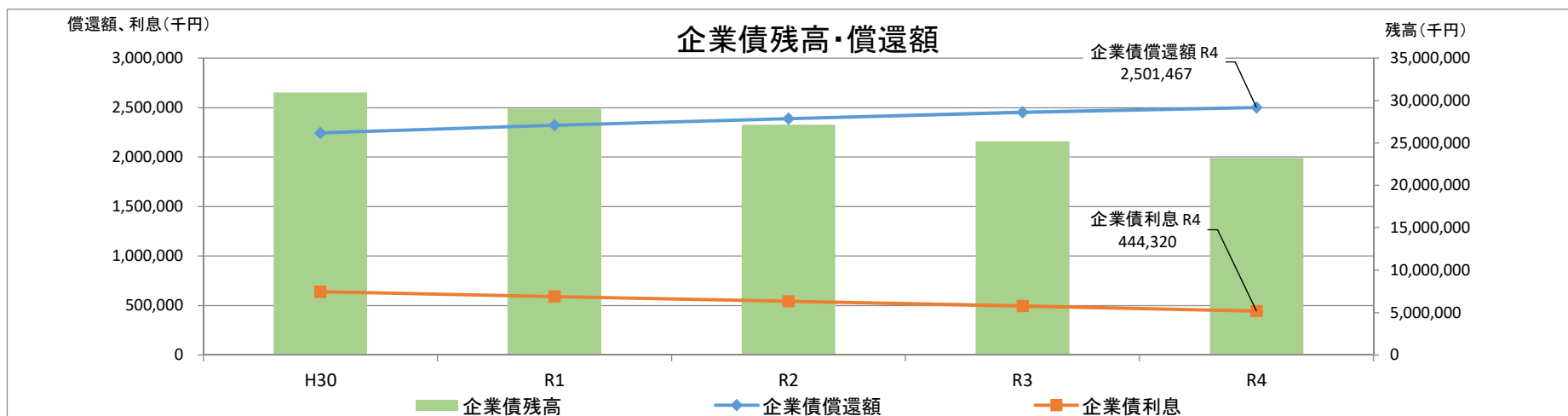


## 6 企業債（決算書 49ページ、56～69ページ）

(千円)

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
年度末残高	30,963,734	29,060,390	27,150,353	25,195,705	23,220,038
借入額	478,900	418,100	480,600	498,800	525,800
うち資本費平準化債	322,100	362,100	362,100	400,000	491,000

令和4年度は、下水道事業債3,480万円と資本費平準化債4億9,100万円を借り入れました。  
一方で、25億146万7千円の元金償還により、年度末の企業債残高は232億2,003万8千円となりました。  
また、企業債利息として4億4,432万円を支払いました。



## 7 利益剰余金（決算書 38～39ページ）

(千円)

前年度からの繰越利益剰余金 A	227
当年度変動額 B	1,261,359
当年度純利益	629,859
積立金の取り崩し	631,500
当年度末処分利益剰余金 (C=A+B)	1,261,586

利益剰余金処分(案)

(千円)

減債積立金の積立	△ 630,000
資本金への組入れ	△ 631,500
処分量計 D	△ 1,261,500

(千円)

翌年度への繰越利益剰余金 (E=C-D)	86
----------------------	----



当年度末処分利益剰余金は、前年度繰越額22万7千円と当年度純利益6億2,985万9千円、資本的収支の不足額を補てんするために減債積立金を取り崩した6億3,150万円の合計12億6,158万6千円となりました。

剰余金の処分は、市議会での認定議決を受けて実行します。

当年度の利益は、企業債償還の財源に充てるため、減債積立金へ積立てます。

# 令和4年度に下水道事業で実施した主な取組みについて

①施設の維持管理	②水洗化率の向上対策(広報)
<p>◀ 下水道施設維持管理 ▶</p> <p>処理場5施設及びマンホールポンプ場161箇所、管きょ797kmの適切な運転管理と施設の維持に取り組み水環境の保全に努めました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>管路自走式カメラ調査 L=1,924m実施</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>管口カメラ調査 巡視点検 245箇所実施 L=72,343m実施</p> </div> </div> <p>●維持管理費 C=175,541千円 委託費:138,068千円 汚泥処分費:18,876千円 修繕費:18,597千円</p>	<p>◀ マンホールカード『みずかがみ(水鏡)』 ▶</p> <p>「マンホールカード」は、全国各地の文化・名所・名産品等をデザインした特徴あるマンホール蓋をコレクションできるカードで、小さなパンフレットの役割を果たしています。</p> <p>このカードは、「公益社団法人 日本下水道協会」が事務局を務める下水道広報プラットフォームが企画し、シリーズ累計941種、656自治体のカードが発行されており、安曇野市のカードが第14弾にて選ばれたことから発行の運びとなりました。</p> <p>路上を飾るご当地ものとしてマンホール蓋が市民の関心を集め、今後の水洗化率向上につながることを期待されます。</p> <p>なお、希望者への無料配布を下水道課窓口にて行っています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>●印刷製本費 C=44千円</p>
③施設の適正な管理・長寿命化対策	④明科地域下水道施設統廃合事業
<p>◀ スtockマネジメント計画の実施 ▶</p> <p>経年経過に伴う老朽化施設の増加により、改築時期や改築費用が一時的に集中することが想定されます。</p> <p>今後、施設の計画的な点検、長寿命化対策が必要になるため、令和2年度に下水道ストックマネジメント実施方針を策定しました。</p> <p>令和4年度はこの方針計画に基づき、2箇所のマンホールポンプ更新工事を発注し、1箇所の工事が完成しました。残り1箇所は、全国的に半導体が不足しているため、翌年度に工事を繰越しましたが、6月末に完成する見通しが立っています。</p> <p>老朽化したポンプを更新することにより、機能停止に伴う被害の発生リスクが低減されます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>交換前のポンプ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>交換後のポンプ</p> </div> </div> <p>ストックマネジメント全体計画 (R3~R7)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広域監視通報装置 更新 166箇所</li> <li>・マンホールポンプ設備 更新 7箇所</li> <li>・管きょ改築 L=41m</li> </ul> <p>●更新工事費 C=34,100千円(内、繰越額16,280千円)</p>	<p>◀ 汚水処理の広域化・共同化の推進 ▶</p> <p>明科地域には5つの処理区があり、それぞれに汚水処理施設がありますが、施設の供用開始から20年以上経過し、機械や電気などの設備機器が耐用年数を迎えており、今後の修繕費や改築更新費の増加が見込まれています。</p> <p>この様な背景から、平成28年度から明科地域の下水道事業運営について検討を開始し、令和2年度上半期には、地域性や経済性などを検討した結果、明科、生野の汚水処理施設を廃止し、県が管理する犀川安曇野流域下水道(アクアピア安曇野)の処理区へ編入することが最も経済的であるとの結論に至ったことから、令和3年度より法手続き等の事務を開始しました。</p> <p>令和4年度は、上半期までに都市計画法に基づく認可変更、下水道法に基づく計画変更手続きを完了させました。下半期は管路工事に係る詳細設計、設計に係る地質調査に着手しましたが、法手続きに日数を要したため、翌年度に業務を繰越しており、年内完了を目指します。</p> <p>接続管路詳細設計業務委託 地質調査業務委託</p> <div style="text-align: right;">  <p>犀川 中村 川西 高瀬川 押野 田沢幹線 生野 明科 接続管 R12 接続管 R8 接続管 R18 接続管 R8 接続管 R8 アクアピア安曇野</p> </div> <p>●委託費 C=68,800千円(内、繰越額68,800千円)</p> <p>●詳細設計は、R4~R5までの債務負担行為により進めています。(R4 C=62,420千円、R5 C=40,342千円)</p>